

平成27年度 あきたスマートカレッジ (報告)

特別講座

1～3の会場：秋田県生涯学習センター3階 講堂

4の会場：鹿角市文化の杜交流館(コモッセ) 研修室

【趣旨】 所長講話、継続希望の多かった講座、来年度につながる講座、地域からの開催希望があった講座などを「特別講座」として開催します。

秋田会場

回	期日	テーマ	講師	参加者数
1	2月13日 (土)	「いのちの星 地球」 ～あなたも私も「奇跡の存在」～	秋田県生涯学習センター 所長 一関雅裕	64
2	3月5日 (土)	「大正文学史と秋田」 ～樽陰・小牧・洋文・賢三らの功績～	秋田県立大学 教授 高橋秀晴氏	80
3		「イスラームとヨーロッパ」 ～移民・難民政策と文明の衝突～	日本赤十字秋田看護大学 非常勤講師 瀬田川昌裕氏	81
合計				225名

鹿角会場

回	期日	テーマ	講師	参加者数
4	3月12日 (土)	「秋田の民俗芸能、その概要と魅力」	たざわこ芸術村民族芸術研究所 所長 小田島清朗氏	30
合計				30名

毎年、年間のスケジュールには予定されていない特別なプログラムで、年度末に開講しているのが「特別講座」です。今回は、自然・文学・国際関係・民俗をテーマに、当センターと鹿角市の2カ所で開講しました。ここでは、来年度の「日本近代文学への招待」の講座で講師をお願いしている高橋秀晴先生の講座について報告します。



昨今、社会や技術の進歩のスピードは著しく、大学で学んだことが一生通用するような状況ではなくなってきました。したがって、生涯学び続けることが大事になってきており、大学では学び方を教えるように変わってきています。

文学作品も、書かれた時代の社会情勢によって影響されます。大正時代というのは、『中央公論』の編集者である滝田樽陰が世に出した吉野作造の大正デモクラシーを「明」とすれば、小作問題や労働問題などの社会問題の噴出という「暗」を持つ時代でもありました。そうした二面性を背景に、たとえば武者小路実篤は「新しき村」の建設を試みたわけです。

小牧近江、金子洋文、今野賢三らが創刊した雑誌『種蒔く人』についても時代の文脈の中で捉える必要があります。秋田県には、彼らに関する新資料が多数所蔵されています。夏の講座では、それらの紹介や分析結果についてお話しするつもりです。

来年度の「日本近代文学への招待」の講座が、とても楽しみとなるお話でした。